

井深信先生を偲んで

海老原 史樹文[✉]

関西学院大学 理工学部

時間生物学会名誉会員で学会理事を務められた井深信先生（享年 76 歳）が今年の 11 月にご逝去されました。時間生物学、心理学などの学会や教育行政などに対するご貢献を考えるにつけ、いささか早いご逝去の報に接し残念でなりません。

井深先生と私とは、研究面で直接的な関係があったわけではありませんが、かつて勤務されていた三菱化成生命科学研究所の故川村浩先生の研究室に私も所属していた関係で、追悼文を書かせていただきます。

井深先生は、時間生物学会の前身である生物リズム研究会（1984 年発足）や臨床時間生物学研究会（1986 年発足）の設立当初から研究会活動に携われ、我が国の時間生物学研究の発展に大きく貢献してこられました。1987 年には滋賀大学で第 4 回生物リズム研究会を主催され、また臨床時間生物学研究会の発足幹事として研究会活動を牽引されてこられました。

東京教育大学教育学部の心理学科をご卒業後、同大学大学院を経て三菱化成生命科学研究所の故川村浩先生のもとで、日本で初めて視交差上核の機能に関する研究を始められました。川村先生の視交差上核に関する一連の研究は有名ですが、その最初の実験となる視交差上核の破壊を行い、睡眠・覚醒リズムが消失することを報告されています。当時は、概日時計の実体が不明なためにリズム発現に迫る研究は全く進んでいませんでしたが、1972 年にラット視交差上核の破壊により血中コルチゾールの血中濃度と回転輪活動の概日リズムが消失することが発表され、視交差上核がにわかに注目を集めるようになった時でした。概日時計の局在を直接的に証明するためには、脳そのもののリズムを測定することが重要と考え、井深先生はラットの脳波を連続記録する実験を 1973 年にスタートされました。今日では脳波の測定や解析はデータのデジタル化により容易になってきましたが、当時は、何ヶ月も続く脳波、筋電図、眼球運動のポリグラフを連続記録して、その記録を覚醒、徐波睡眠、逆性睡眠に分類する大変な作業を要する実験でした。私が研究所

に在籍した時に、膨大な脳波記録紙が山のように積まれていたことを思い出します。今日、脳神経科学における概日リズムの重要性については広く認識されていますが、その先駆けとなる研究業績を挙げられた先生のご貢献は高く評価されると思います。実際、その結果の重要性を表すように、論文が発表されると相当な数の別刷り請求があったと聞いています。この研究は、その後、井上慎一博士による視交差上核の切り離し実験におけるマルチユニット活動のリズム、佐脇敬子博士による視交差上核の移植実験などにつながり、視交差上核に関する研究発展の礎になってきたと思います。

時間生物学研究におけるもう一つのご貢献は、季節性リズムに関する研究です。三菱化成生命科学研究所を退職され、滋賀大学教育学部に移られた後、季節性適応の視点からハムスターの冬眠と生殖機能について研究に取り組みされました。当時の我が国の時間生物学分野では季節性リズムや概年リズムを研究対象にする人はほとんどいませんでしたが、井深先生は早くからこの分野の重要性を認識され研究をスタートされました。1987 年に開催された第 2 回臨床時間生物



川村先生を偲ぶ会の時の井深信先生

学会では、「Daily Torpor の季節リズムと概日システム」というタイトルで、また、2001年の時間生物学会の会誌に「冬眠研究の最近の話題～睡眠ホメオスタシス仮説の展開～」というタイトルの総説を投稿されています。当時、私は学会誌の編集長を務めており、原稿を集めるのに一苦労していましたが、先生の積極的な投稿により、この総説が依頼原稿ではない時間生物学会誌初めての査読投稿論文となりました。また、時間生物学研究の発展動向をまとめた単行本「行動の時間生物学」を朝倉書店から出版し、その中にも季節性リズムや概年リズムなど概日リズムとは異なる様々なリズム現象についてまとめられています。

その後教育行政に力を注ぎ、滋賀大学教育学部学部長、理事、副学長を経て2008年に聖泉大学学長に就任されています。この間のご活躍については、詳しくは存じ上げませんが、先生の人となりから、大学の管理運営に大いに尽力されたことと思います。

先にも述べましたが、井深先生と私とは研究面での直接的なつながりはありませんでしたが、私の初めての学会発表（動物心理学会）に関心を持っていただいたり（多分質問をされたように記憶しています）、川村先生の門下生であったりしたことなどから、何かとつながりのある間柄でした。その関係で、長年にわたり親しくしていただいております。突然の訃報に接して残念でなりません。これまでのご好意に感謝しつつ、ご冥福をお祈りいたします。

その後教育行政に力を注ぎ、滋賀大学教育学部学部長、理事、副学長を経て2008年に聖泉大学学長に就任されています。この間のご活躍については、詳しくは存じ上げませんが、先生の人となりから、大学の管理運営に大いに尽力されたことと思います。



滋賀大学副学長として活躍されていた当時の井深先生（左端）。
滋賀大学提供（2007年撮影）